

# 第17回熊本同友会景況調査報告 (2008年1月～3月期)

## 【調査要領】

調査時: 2008年3月5日～3月14日  
 対象企業: 熊本同友会会員企業  
 調査の方法: FAXの送受信による自計記入を求めた  
 回答企業数: 510社より163社の回答を得た。(回答率: 32.1%)  
 平均従業員数: 役員を含む正規従業員数 21.1人  
                   派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 9.5人

業種	社数	社員数	社数	社員数	社数	パート数	社数	パート数	社数
製造業	26	～5人	66	～40人	7	～5人	65	～40人	0
建設業	27	～10人	24	～50人	7	～10人	11	～50人	7
流通商業	55	～15人	18	～100人	10	～15人	3	～100人	4
サービス業	47	～20人	16	～200人	3	～20人	3	～200人	3
その他	8	～25人	2	200人以上	5	～25人	2	200人以上	2
総計	163	～30人	5	無回答	0	～30人	2	無回答	0

## 「4期連続仕入価格の上昇、マイナス幅二桁拡大」

DI値(「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引く)の推移から見ると、前回調査2007年10月～12月と比べると、前年同期比(2007年1月～3月)では、売上高が14から0へと14ポイント、業況判断は12から27へと15ポイント、経常利益は2から14へと16ポイントと二桁の大幅下降、また運転資金調達は前期比(2007年10月～12月)で、1から14へと15ポイント下降、全ての項目で二桁下降となった。前回調査の次期見通しDI値を大きく下回っており、2008年の厳しい状況が現れている。

日銀短観(2008年1月～3月期)をみると、業況判断DIは、前期比(2007年10月～12月)で製造業が2から6へと8ポイント、非製造業が12から15へと3ポイント下降した。次期見通しは製造業が9、非製造業が21とさらに厳しい状態である。中小企業庁第111回中小企業景況調査(2008年1月～3月期)でも、全産業のマイナス幅が拡大し前回調査時の「中小企業の業況は、弱い動きが続いている」から「中小企業の業況は、悪化している」になった。また、同友会景況調査報告(DOR)82(2008年1月～3月)では、経常利益の悪化理由として「原材料・商品仕入額の増加」が調査以来最高の56.2%にのぼったことを上げており「原材料・資材価格の高騰、全面不況を呼ぶ」と指摘している。

次に業種別では、製造業は、「売上高」が2から5へと3ポイント上昇したが、「経常利益」「業況」「運転資金調達はマイナス値にとどまり、建設業が「売上高」「経常利益」「業況」「運転資金調達」全てマイナス値に落ち込んだ。流通商業は、「売上高」は横ばいで、「経常利益」「業況」「運転資金調達はマイナス値にとどまり、サービス業は「経常利益」が7から1へと6ポイント回復したものの、「売上高」「業況」「運転資金調達」全てマイナス値にとどまった。

また、経営上の問題点は、「価格競争の激化」が1位、前回同様2位の「仕入れ価格の上昇」が42から47へと5ポイント上昇し、2007年4月～6月期調査以来4期連続で上昇となり、「日銀短観」「中小企業庁景況調査」「中同協DOR」と同様の結果となった。3位に「売上げの減少」が29から33へと4ポイント上昇した。

現在取り組んでいる経営課題では、1位「新規顧客の開拓」2位「新商品・新製品・新規サービスの開発」3位「既存顧客の強化」となった。

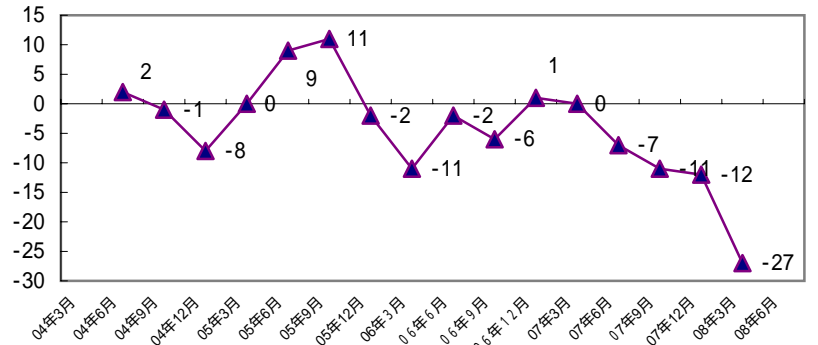
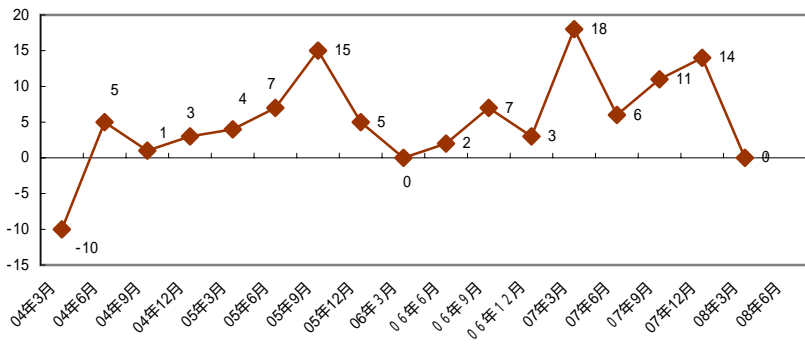
最後に特別調査として「経営指針実態調査」を行った。経営指針の成文化状況は、「経営理念を成文化している」企業が88社で回答企業の54%を占め、「経営方針を成文化している」企業が79社、「経営計画を成文化している」企業が76社だった。「どのような体制で作ったか」は、「社長一人」よりも何らかの形で社員が関わっている割合が多かった。

### 売上高、経常利益、業況判断、運転資金調達

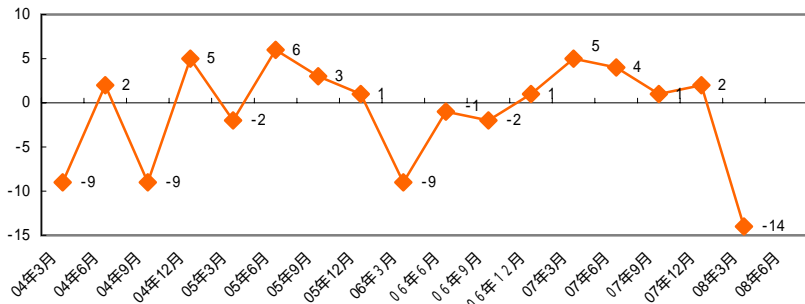
	2007年の10月～12月と比べて (前期比)					2007年の1月～3月と比べて (前年同期比)					2007年の4月～6月と比べて 次期見通し				
	増加	横ばい	減少	不明	DI値	増加	横ばい	減少	不明	DI値	増加	横ばい	減少	不明	DI値
売上高	増加	横ばい	減少	不明	DI値	増加	横ばい	減少	不明	DI値	増加	横ばい	減少	不明	DI値
%	29%	40%	29%	1%	0	29%	40%	29%	1%	0	23%	47%	29%	1%	6
経常利益	好転	横ばい	悪化	不明	DI値	好転	横ばい	悪化	不明	DI値	好転	横ばい	悪化	不明	DI値
%	17%	50%	31%	2%	14	17%	49%	31%	2%	14	17%	50%	30%	3%	13
業況判断	好転	横ばい	悪化	不明	DI値	好転	横ばい	悪化	不明	DI値	好転	横ばい	悪化	不明	DI値
%	10%	50%	36%	4%	26	10%	47%	37%	6%	27	11%	39%	45%	6%	34
運転資金調達	容易になった	変わらない	厳しくなった	不明	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	不明	DI値	容易になる	変わらない	厳しくなる	不明	DI値
%	5%	72%	19%	4%	14	6%	69%	20%	6%	14	5%	63%	26%	6%	21

売上高DI推移(前年同期比)

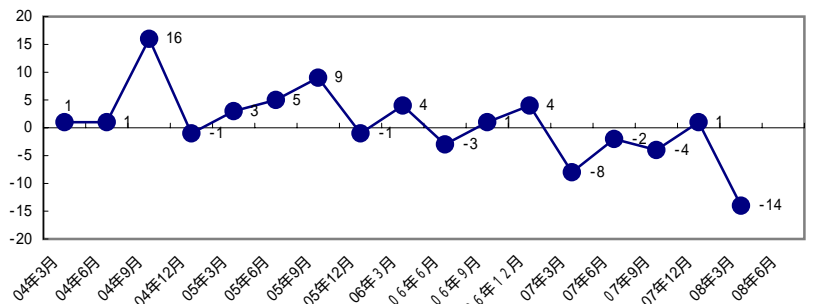
業況判断DI値推移(前年同期比)



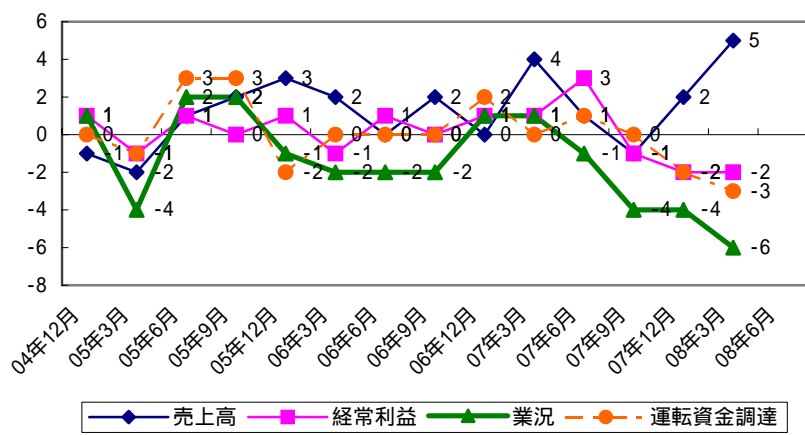
経常利益D1値推移(前年同期比)



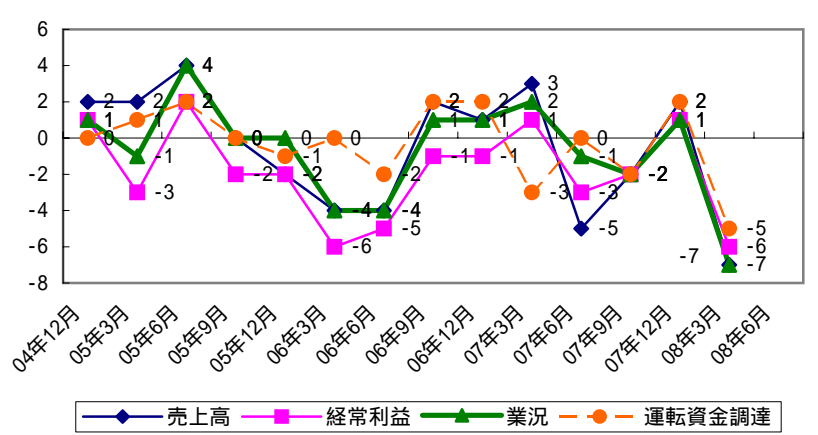
運転資金調達D1値推移(前期比)



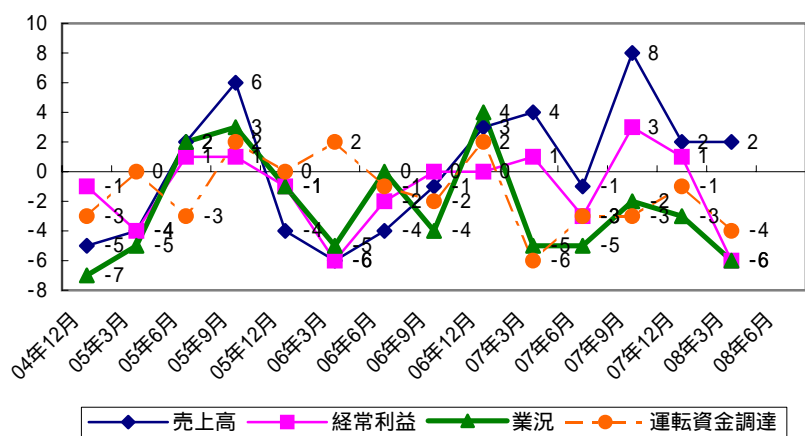
業種別D1値推移(製造業)



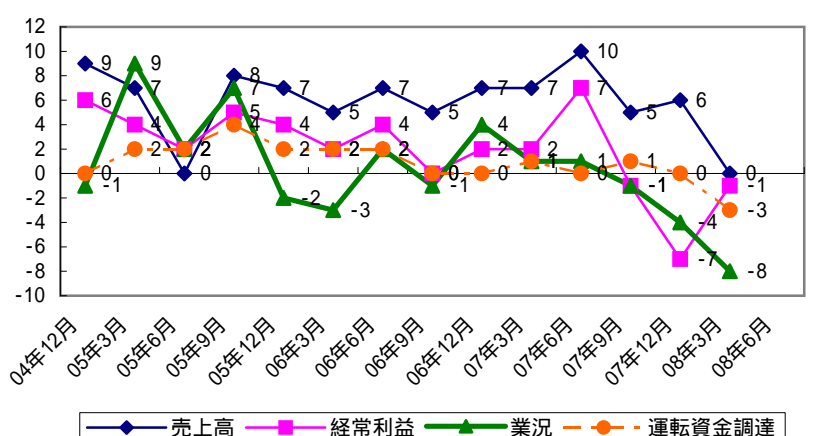
業種別D1値推移(建設業)



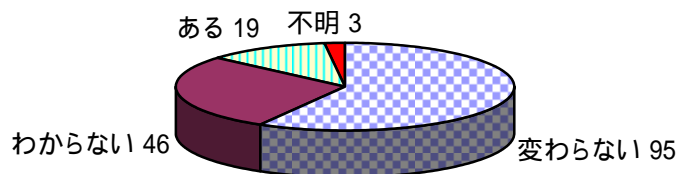
業種別D1値推移(流通商業)



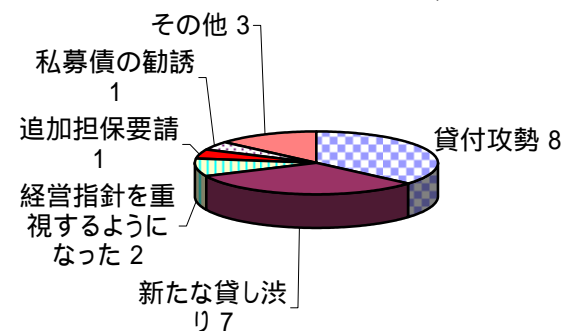
業種別D1値推移(サービス業)



金融機関の姿勢の変化(社数)



「ある」と答えた人の変化の内容(複数回答)



経営上の問題点(上位3つまでを複数回答、%)



